

## 第 56 回建築士会全国大会しまね大会紹介

### 3) お茶室

#### 1. 松江の茶室

##### 松江と茶の湯

島根県は茶の湯が盛んです。どんな田舎に行っても日常的に抹茶を頂く習慣が根付いています。お茶をどうぞと言われれば抹茶にお菓子が添えられて出てきます。松江のお茶文化を作ったのは松江藩 7 代目藩主松平治郷（不昧）侯です。藩政改革を行い、潰れかけた藩財政を立て直したヒーローであると同時に茶人としての顔を持ち、茶道に通じ不昧流なる



菅田庵

流派まで作り松江に残しました。松江で最も敬愛される藩主不昧侯が島根のお茶文化の礎を築いたと言っても良いでしょう。お茶室は単独にあるものやお寺にあるもの、そして個人宅にあるものなどいろいろです。まずは国指定重要文化財「菅田庵」です。不昧侯を喜ばすため、家老の有澤氏が山荘内に作った茶室です。2 畳台目中板、待合は蒸し風呂付です。

観月庵は松江城の西に位置する普門院という寺の一隅に建てられている茶室です。三斎流の茶室です。お寺が天台宗のため、仏事と結びついた茶の作法が特徴的です。月見のための大き



観月庵

な丸窓が茶室にくりぬかれています。なお普門院はラフカディオ・ハーンの怪談にも出てくる、古いお寺です。

大寂庵という民間の茶室を紹介します。見ての通り、酒樽に屋根をかけて茶室に改造しています。そう古いものではありません。島根には他にも木の根をくりぬいた茶室とか、ユニークなものが存在します。



大寂庵